

未来の 仕事を考える 中学生 空想 コンテスト

20年後に
タイムスリップ

大阪・梅田、グランフロント大阪にある知的エンターテインメント大空間「ナレッジキャピタル」では、中学生のみなさんを対象に、「ナレッジイノベーションアワード 中学生アイデア部門」を開催します。テーマは「未来の仕事を考える」です。

20年後の未来。あなたはどこで、何をしているだろう。未来を描く想像力は、未来を変える力を持ちます。あなたの想像する未来の話をお聞かせください。

STEP1

未来を知る

別紙「10-35年後に予定 / 予測されている出来事」から気になったものを1つ以上選び、なぜ気になったのか、理由や感想を書いてください。

番号：

感想：

STEP2

未来予測

未来の人はどんな生活をしているのでしょうか？

20年後の「地球環境」「世界情勢」「社会現象」「生活スタイル」「学校生活」などを予測してください。(表現は、文章、イラスト、図など自由です。)

ヒント

様々な方法を使って調べてみましょう

- ・図書館
- ・新聞、ニュース
- ・インターネット など

ふりがな

お名前

学年

(歳)

学校名

〒

ご自宅の住所

電話番号

ご連絡先

メール

ふりがな

保護者名

もしグランプリをとったら何が欲しいかを書いてください。

欲しいもの

※ご応募によって頂きました個人情報につきましては法令その他の規範を遵守いたします。また、本コンテストに関わる業務以外での個人情報の利用はいたしません。プライバシーポリシーにつきましてはこちらをご覧ください。 <http://kc-i.jp/privacy/>

【参考図書】「14歳の君へ」著：池田晶子（毎日新聞社）

未来の仕事を考えるには、豊かな思考力が必要です。

この本は、考えるとはどういうことか、生きるとはどういうことか、などを教えてくれる本です。

「未来の仕事」について書かれているわけではありませんが読むと深く考えられるようになるかもしれません。

※読むことがコンテスト応募の条件ではありません。



PRESENT!

コンテストへ応募された先着70名様に「14歳の君へ」を進呈します。お楽しみに！

STEP3

未来の仕事を考える

20年後の未来にあると思う仕事を具体的に書いてください。
(表現は、文章、イラスト、図など自由です。)

※STEP2の内容とつながってなくても構いません。

ヒント1 応募要項の選考基準を読み直してみましょう

ヒント2 周りの人に自分の予測した未来の話の説明して意見を聞いてみましょう



Knowledge Innovation Award

イメージしてみよう!

10-35年後に 予定/予測されている出来事

そのころ、あなたの住んでいる街は、大きく変わっているかもしれない。
環境が変化することで、私たちが眺める風景はどう変わっていくのだろうか？



[PD-US] アルベール・ロビダ (Albert Robida)

1

私たちにとって
宇宙は身近なものになっている!?

今までに日本人で宇宙にいった宇宙飛行士は11名。宇宙飛行士になるには、高度な専門知識を勉強し、高度な訓練を積み重ねなければなりません。技術の発達と、宇宙のことが次第に解明するにつれて、ふつうの人が気軽に宇宙旅行ができるようになる日がやがてやってくると言われています。

2

ロボットは人間にとって
大切なパートナーになっている!?

かつては、産業用ロボットが主流（自動車組み立てロボットなど）でしたが、近年ではお掃除ロボットやペット型ロボットが家庭にあることも珍しくありません。将来はもっと多くの家事ができる多機能ロボットや、まるで人間と同じように学校の登下校や塾の行き帰りを見守ってくれるロボットが生まれるでしょう。

3

車のエンジンが今よりずっと
地球にやさしいものになっている!?

今はガソリンエンジンを使用している車が多く、排気ガスによる大気汚染は長く続く環境問題のひとつです。地球にやさしい社会を目指す中で、近年、エコカーと呼ばれる、ハイブリットカー（ガソリンとモーター（電気）を両方使い分ける車）や電気自動車が販売されています。さらに、今話題の水素を燃料とする自動車の実用化に向けての取り組みが始まっており、その普及が期待されています。

4

リニア新幹線が開通し、
大阪ー東京を
約1時間で移動できる!?

65年前は東京 - 大阪間の移動は鉄道で約8時間もかかっていました。50年前に東海道新幹線（東京 - 新大阪間）が開通し、約4時間に短縮され、23年前には現在と同じ、約2時間30分となっており、今年春には、2時間22分になる見通しです。ちなみに東京、大阪間を歩くと約100時間かかるようです。移動時間の短縮は技術の発達の歴史そのものですね。

5

目的地を入力するだけで到達できる
自動運転システムが実用化する!?

線路がある鉄道の世界では1977年の神戸市営地下鉄開業を始めとして、多くの路線が完全自動運転を行っています。街を走る車の自動運転は技術的にとても難しいものだと言われています。しかし最近では、カーナビのシステムで使うGPSの技術や、様々なものを読み取るセンサー技術の発達、夢の自動運転車の実現を着実に後押しし、世界各地で実験が進められています。

イメージしてみよう!

10-35年後に 予定/予測されている出来事

そのころ、あなたをとりまく生活スタイルは大きく変わっているかもしれない。
テクノロジーと私たちは、どう歩み寄るのだろうか？



6 3D プリンターで料理が つくれるようになる!?

日本でも販売され普及し始めている 3D プリンターの多くはものづくりに利用されているものが主流です。一方、海外では 3D フードプリンターの開発が進んでおり、今ではシンプルなピザをつくるくらいまでになっています。加熱するなど最後の調理は自分でしないといけないので、まだすべてを調理するまでにはなっていませんが、近い未来、3D フードプリンターでも調理済みの料理までが作れるようになるかも。

7 世界中の子供が 同じ授業を受けられるようになる!?

世界規模で通信環境の違いはありますが（高速でインターネットができるブロードバンド回線の世界の普及率は約 45%）通信技術は日々普及・発展し続けています。一方、コンピューターによる通訳の技術も発達しており、やがてことばの壁も超えて世界中で同じ授業を受けられるなど、世界中で学校のかたちが変わってくるかもしれません。

8 電池が発達して携帯電話の充電は 1 週間に 1 回でよくなる!?

約 40 年前、携帯電話による通信が始まりました。当時の携帯電話の重さ 1kg でバッテリーの持続時間は 20 分だったそうです。バッテリーの発達により、今のスマートフォンなどは、軽量化され軽いもので 120g 前後、700 時間以上持続するバッテリーを搭載しています。今後も電池は更に小さく、長持ちするようになっていくと言われています。

9 紙の新聞はなくなる!?

約 20 年前は、5377 万部（一般紙・スポーツ紙をあわせて）発行されていましたが今では 4700 万部まで減少しており、その理由は様々で、意識の変化や人口の減少、更にはインターネットによる電子新聞の発達などもその理由のひとつだと言われています。また海外では、合理的で紙も要らない電子新聞の需要はますます広がり紙の新聞の需要は減っていくでしょう。

11 砂漠に植物を育てる 技術が開発される!?

世界の各地で砂漠化が進んでおり、1 秒間にテニスコート 10 面分（約 2000 m²）が砂漠化していると言われています。日本の国土に例えると 6 年で全土が砂漠化してしまうスピード。日本では近年、水をはじくことが出来る砂が開発されました。この技術によって砂上で雨水を保水できるようになり、少雨地域での農業への利用が期待されています。

10 遠隔操作のロボットアームで どこにいても世界中の名医の 手術が受けられる!?

ロボットアームはすでに通信衛星による遠隔操作のシステムを完成させていますが、それを使った手術はまだ行われていません。この技術発達は、近年言われている医師不足の緩和、医療の地域格差、感染症などの治療、救急災害時の手術などへの活躍が期待されています。